

作物名：りんご

病虫害名：うどんこ病 (病原：*Podosphaera leucotricha*)



写真1 りんごの被害葉（頂芽展開葉）



写真2 りんごの被害葉（拡大）

## 1 被害の特徴と診断のポイント

- 葉、新梢及び果実に、発芽期から秋季にかけて発生する。
- 最初の発生は、主に頂芽にみられる。
- りんごの発芽期から開花期頃に、展開葉が白い粉状の分生孢子に覆われる。発病部位は生育が抑制され、奇形となる。
- 分生孢子は風で飛散して、葉、新梢及び果実に二次感染する。
- 果実に感染した場合は、果梗（果軸）に発生するほか、果面に網目状のさび症状を引き起こす。
- 発病葉から菌糸が伸びて芽に侵入・潜伏し、翌年の伝染源となる。

## 2 伝染源・伝染方法

- りんごの芽に侵入・潜伏した菌糸が越冬し、翌年の伝染源となる。感染した芽の多くは無症状だが、りん片が不完全となってしまりが悪い「ぼけ芽」となる芽もある。
- 春季に発芽した新葉に発病し、病斑上に形成された分生孢子が風で飛散して、二次感染する。
- 本病原菌はもも果実にも感染し、幼果の褐色斑点症状や成熟果のさび症状を引き起こすことが知られている。

## 3 発病しやすい条件

- 降雨が少なく、乾燥が続くと多発しやすい。伝染源が多い場合は、湿潤条件でも発生が多くなる。
- 品種によって発病程度が異なり、「紅玉」「つがる」「ジョナゴールド」等は多く、「ふじ」等は中間といわれている。

## 4 防除方法

- 冬季せん定時に、「ぼけ芽」をせん除して処分する。ほ場内には放置しない。
- 春季～夏季に、本病に登録のある殺菌剤を散布する。
- 風通しの良い樹形に努め、葉液が樹冠全体に届くようにする。

## 5 出典

### (1) 参考文献

- 農業総覧原色病虫害診断防除編第5巻（農山漁村文化協会）

- インターネット版 日本植物病害大事典（全国農村教育協会）
- 「*Podosphaera leucotricha* によるモモうどんこ病の発生と防除」（横澤ら、植物防疫第75巻第11号、2021年）
- 「リンゴうどんこ病に対する罹病性の品種間差異と芽しぶの摘み取りによる耕種的防除」（八木橋ら、東北農業研究第77号、2024年）

## (2) 写真

- 宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部病害チーム撮影

（令和7年11月作成）